volume 164

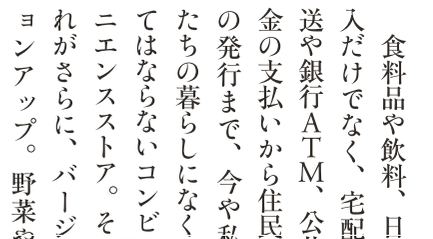
変わる日本の「暮らし」と「まち」

高齢者や子育て、災害支援拠点にもなる進化型コンビニエンスストアが誕生

ハッピーローソンタウン日野高幡台店
2026年●令和8年～

食料品や飲料、日用雑貨の購入だけでなく、宅配便の発送や銀行ATM、公共料金の支払いから住民票の発行まで、今や私たちの暮らしになくてはならないコンビニエンスストア。それがさらに、バージョンアップ。野菜や肉といった生鮮品や調剤薬局、市役所のオンライン相談窓口、さらにはオンライン診療受診施設やコミュニティスペースまで備えた、コンビニを超えたコンビニが東京・日野市のUR賃貸住宅高幡台団地にオープンした。

開店から約1か月たった8月。店舗を訪れると、まずその広さと品ぞろえ、広々としたイートインスペースに驚いた。26席に、畳敷きの小上がりも設けたスペースでは、宿題をする小学生やコーヒーを飲みながらおしゃべりする若い女性、ひと休みしているシニアまで、年齢も目的もさまざまな人々が集い、思い思いに寛いでいる。その様子は、新しいコンビニエンスストアの存在を感じさせるのに十分だ。



阿部民子 text by Tamiko Abe
illustration by Shigeyuki Sakata

○コンビニを拠点にまちづくり

新たに開店したコンビニエンスストアの名称は「ハッピーローソンタウン日野高幡台店」。今回の店舗は高幡台団地を管理するUR都市機構、ローソン、KDDIと日野市が連携して誕生したもので、集合住宅では初の出店となる。

「URはフィールドとして団地の場所を提供、ローソンさんは店舗の運営、KDDIさんにはテクノロジーを活用したコンテンツを提供していただき、日野市さんには日野市施策や各取り組みとの連動調整などご協力いただいています。今後も4者で連携して、さまざまな活動に取り組み、郊外団地店舗のモデルとして、どういう効果があり、どういうサービスが求められているのか、検証を重ねていきたい」と話すのは、URの野村淳だ。多くの団地があるなかで、高幡台団地が選ばれたのは、もともとこの地にローソン100があったことから。規模やスペースの広さ、行政との連携が取れることなどが、決め手になったという。

「ハッピーローソンタウンとは、ローソンが掲げる、お店を拠点に世代を超えて誰もが安心して楽しく暮らせるマチづくりの構想です。この店舗の特徴は、通常のローソンが提供する商品やサービスに加えて、生活利便性向上や防災機能強化の面を併せもつこと。有事の際は防災拠点にもなる『災害支援ローソン』として、太陽光発電システムと蓄電池、Starlinkを活用したネットワーク設備などを備えています」と説明するのは、ローソン開発本部法人ビジネス部の榎本貴章部長だ。店内のイートインスペースでは、地域の交流やワークショップ、イベントなども行い、地域コミュニティ活性化にも役立てていくという。

○地域の暮らしを支える拠点に

もう一つ、この店舗の大きな特徴が、KDDIによる最新テクノロジーの活用だ。





若者から高齢者まで幅広く利用されている。生鮮食料品もずらりと並ぶ。

「KDDIは、リアル×テクノロジーで地域の暮らしをよりよくするという考えのもと、本店舗を単なるコンビニエンスストアでなく、地域住民の皆様の暮らしを支える拠点として進化させることを目指しています。テクノロジーを、団地で長年培われてきたコミュニティを支える存在として活用し、より温かく、より便利な地域づくりに貢献したい」とKDDIパーソナルグロース事業本部の益田浩輔さん。店内には、暮らしや通信、インフラなどを専門スタッフに相談したり、日野市役所と連携した市民相談ができるリモート接客システム「Pontaよろず相談所」、行政情報や地域情報などをAIコンシェルジュが案内する「AIサポーター」を設置している。「コンビニはもっとも身近なインフラの一つ。そこを起点にお買い物や防災、行政サービスやコミュニティの形成を組み合わせることで、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる環境作りが可能になると思っています。今後はわが社の技術をアップデートしながら、地域の要望や課題に合ったサービスを提供し、地域の皆様の課題解決につながれば」とKDDIパーソナルグロース事業本部の権田圭亮さん。

URの花枝卓哉は、今回の連携について「UR、ローソン、KDDI、日野市の4者が連携したことで相乗効果のシナジーが生まれ、地域の課題解決がより推進されるのではないでしょうか」と話す。「この店舗に多様な層が集まることで、若い世代はもちろん、昔団地に住んでいたとか、訪れたことのある人が、団地っていいな、団地に住みたい、と思ってくださるような取り組みの一例になれば」と野村も言葉を継ぐ。

単に買い物をするだけでなく、高齢者支援に子育て支援、災害対応支援などさまざまな要素を兼ね備えた進化型コンビニエンスストア。これからこの場所がどう使われ、どんな交流が生まれるのか、今後の展開が楽しみだ。

社会課題を、超えていく。
UR都市機構

［企画制作］新潮社